**＜ダラダラ社員とノー残業社員＞**

　こちらは，広告代理店に勤務する社員のＡさんとＢさんです。

　ＡさんもＢさんも，複数のプロジェクトを担当し，それぞれの現場で，多くの関係者と協力しながら，プロジェクトを進めていました。

＞

　しかし，Aさんは，突発的な対応など，広告代理店業務の関係で，必要があるときに残業をするほか，さほど必要がないときにでも，念のため，今後のプロジェクトで必要となるかもしれない準備を，残業時間を使って，行っていました。

　また，Aさんは，残業しているときに，社長に声をかけてもらいたいと思っていました。

＞

　こちらが，社長です。

　おお，Aさん，こんな時間まで残業しているのですか。大変ですね。よくがばってくれていますね。しかし，このご時世ですし，体調管理も大切ですから，なるべく残業はなさらないでくださいね。

＞

　はい，社長，ご心配くださって，ありがとうございます。

　しかし，私，今の仕事が楽しくて仕方がないのです。なので，もう，何十時間でも，残業がんばれそうです。

＞

　Aさんはこう思っていました。社長に，残業してるとこ見てもらえてラッキー。

　やっぱりがんばってるところ，見てもらえるって，うれしいな。

　しかも，社内で，いつも最後まで残って残業がんばってるのは，僕って評判になってるらしいしなぁ。

　それに，今月も，残業代，いっぱいもらえそうだなぁ。

＞

　他方，社長は，こう思っていました。

　うーん，Aさんは，いつも残って残業してるなぁ。がんばってるAさんには，あんまり言えないけど，Aさんだけ，わが社で，残業代がとても多いんだよなぁ。仕事の時間分，残業の時間分，ちゃんと成果に結びついているのだろうか。

　Aさんと同期のBさんは，あまり残業しないけれど，とても成果を出しているんだよなぁ。だから，やっぱり，ボーナスの査定では，AさんとBさんを比較すると，やっぱり，残業少なくて，成果を出しているBさんおボーナスの査定が高くなるんだよなぁ。残業しないで，早く帰って，ボーナスは多くもらえる，Bさんの働き方のほうが良いと思うんだけど，なかなか，これはAさんには言いづらいんだよなぁ。

＞

　こちらが，そのBさんです。Bさんは，必要な時以外は，残業をしない方針でした。

　Bさんは，映画を見ることが趣味でした。そのため，仕事はなるべく就業時間内に終わらせて，修行時間内に最大の成果を出して，なるべく残業しないで帰り，できるだけ趣味の映画を見に行きたいと思っていました。

＞

　そのため，Bさんは，就業時間内に仕事を終わらせるために，朝，出勤して歩きながら，その日の仕事の段取りを考えながら出勤し，出勤直後から，朝からフルスピードで，必要なタスクをどんどん処理できるようにしていました。

＞

また，日々，自分が，どんな仕事にどれくらいの時間がかかっているか，ストップウォッチを使って計測してみたり，昨日よりも早く作業が終わるかどうか，時間を計ってみる，タイムアタックチャレンジをしたり，日々，工夫を重ねていました。

＞

また，仕事の効率化について，先輩に相談したり，本を買って勉強したりしていました。

＞

　その結果，Bさんは，ほかの社員よりも効率的に仕事を終わらせ，必要がないかぎり，極力残業をしないようにしていました。

＞

そして，健康と仕事のパフォーマンスアップのために体力づくりをしたり，休養をとって体を休めたり，家族との時間を作ったり，趣味の映画を見に行く時間を確保しました。

　その結果，Bさんは，とても健康になり，体調不良での欠勤がとても少なくなり，仕事が円滑に進みました。また，日中の仕事のパフォーマンスを高くキープできました。

＞

さらに，映画好きが高じて，映画関係の広告には社内で一番詳しくなり，社内で，映画の広告については，Bさんが一番と言われるようになりました。

＞

しかも，Bさんは映画好きのコミュニティに所属するようになり，そのコミュニティに所属している仕事のできる人や，自分の知らない世界を知っている人と交流することで，刺激を受け，よりいっそう成長したいと思い，モチベーションが上がりました。

＞

さらに，Bさんはそのコミュニティーで，仕事の広告のアイデアをもらったり，広告の仕事を獲得することもありました。